

課題別研修

－不登校防止パッケージ H27事例－

不登校事例（小学校）

1 A男は、5年生になってこの学校に転校してきた。担任のB教諭は、前の学校から、「A男は対人
2 関係を築きにくい。」と引き継ぎを受けていたので、A男がクラスになじめるか心配していたが、得
3 意の算数の授業中には挙手も多く、その様子を見て安心していた。ところが、クラス遊びのドッジボ
4 ールの際、運動の苦手なA男は女子が強く投げたボールを受け損ない、ボールを自分の顔に当ててし
5 まった。一瞬笑いが起きてA男も笑ったが、外野に出るとそのまま教室へ帰ってしまった。その翌日
6 からA男は休み時間は教室に一人であることが多くなり、保健室を訪れることも多くなった。得意で
7 あるはずの算数の授業でさえ、あまり挙手することがなくなった。そんなA男にクラスメートはどん
8 どんよそよそしくなっていた。そして、A男が「もう学校には行きたくない。」と言って学校を休
9 み始めたのは4月の下旬であった。

10

11 B教諭はA男が休み始めて3日目まで様子をみたが、4日目に家庭訪問をし、A男から最近の学校
12 での様子を聞き取り、学校に行くことができない気持ちを確かめることができた。母親には、継続的
13 に家庭訪問をしてA男の気持ちが和らぐよう話を聴くこと、A男を温かく受け入れる雰囲気クラス
14 にできるよう児童一人一人の心に訴える指導をしておくこと、また、A男が教室へ入りにくいよう
15 であれば保健室で過ごすこともできることを伝えた。

16

17 B教諭は家庭訪問から学校へ帰ると、聞き取ったことを学年主任と生徒指導担当、管理職に伝えた。
18 その後、生徒指導委員会が開かれ、この件を「不登校に陥る可能性のある事案」と捉え、担任、学年
19 主任、生徒指導担当、教頭で今後の具体的な支援策について協議した。

20

21 翌日、B教諭はクラスの児童に、家庭訪問をした時の、A男の様子や今の気持ちを丁寧に伝えた後、
22 全員にA男へ手紙を書かせた。また、学年主任、生徒指導担当の助言の下、4月から転校してきたA
23 男に対する自分たちの言動を学級全体で振り返り、今後どのようにA男に接していくことがよいかを
24 考える話し合いを行った。

25

26 その日の夕方、B教諭は家庭訪問をし、クラスの児童が書いた手紙をA男に手渡して、みんなA男
27 の登校を待っていることを伝えた。その翌日もA男は学校を休んだが、B教諭が家庭訪問をした際
28 は、A男の方から、明日から登校することを話した。

29

30 翌日、A男は約束通り登校した。はじめは恥ずかしそうにしていたが、周りの児童が笑顔で話しか
31 けたので、スムーズに打ち解け、笑顔で一日を過ごすことができた。しかし教室に入ることができた
32 のは、この一日だけで、次の日からは、A男の希望で別室登校となった。別室に会いに来るクラスメ
33 ートとは話をするが、教室に行こうとはしない。A男の表情は以前のように暗くなった。そんな中、
34 B教諭は学年主任にケース会議を早急に開くよう提案した。

課題別研修

－不登校防止パッケージ H27事例－

不登校事例（中学校）

1 A子は、小学校から「集団から疎外されやすい。」という申し送りを受け、中学校へ入学した。A
2 子が2年生の今年、年度始めのクラス編成会議では、昨年まで1年生を担当していた教員たちから、
3 「A子と同じグループの生徒たちは、思い込みが強くトラブルを起こしがちなA子と同じクラスにな
4 ることを嫌がっている。」という情報が出された。A子には新たな友達をつくってほしいと考え、1
5 年生の時にA子と同じグループのメンバーは別々のクラスにした。4月上旬、新しいクラスでA子は
6 なかなか友達ができず、昼休みは一人で過ごしたり、保健室で過ごしたりすることが多かった。担任
7 のB教諭はクラスの数名の生徒に「A子と仲良くしてやってね。」とお願いしていたが、A子に声を
8 かける者はいなかった。

9

10 4月中旬、A子は3日続けて「腹痛」を理由に欠席をした。B教諭は心配になり4日目の放課後、
11 家庭訪問をすることにした。A子の母親から、A子は「学校には行きたい。」と言うのだが、朝にな
12 ると腹痛を訴えるようになったことを聞いた。母親はB教諭が来ているので、A子にあいさつするよ
13 う声をかけたが、部屋に閉じこもり、出てくる気配はなかった。B教諭は、A子を心配していること
14 を書いた手紙を母親に渡してもらうよう頼んで帰校した。

15

16 B教諭は家庭訪問で聞き取った内容を学年団と生徒指導主事、管理職に伝えた。その後、生徒指導
17 委員会をが開かれ、この件を「不登校に陥る可能性のある事案」と捉えて、クラス全員の生徒がA子
18 が学校へ来にくい状況をつくっているという意識をもたせた上で指導をすること、家庭訪問にはB教
19 諭と共に、昨年度担任であった学年主任も同行することを確認した。また、A子が登校できるよう、
20 次のように役割分担をした。

21 A子への支援・・・担任、学年主任、養護教諭
22 学級への指導・・・担任、学年主任、生徒指導主事
23 保護者への対応・・・担任、教頭

24

25 翌日B教諭は、クラスの生徒にA子の欠席理由は「腹痛」だけではないことを伝え、今までのA子
26 に対する自分たちの言動を振り返り、今後どのように接していくのがA子にとってよいかを話し合っ
27 た。夕方、B教諭と学年主任が家庭訪問をし、クラスの話合いの様子を伝えた後、母親と今後の支援
28 方針について話し合ったが、A子が部屋から出てくることはなかった。

29

30 翌日もA子は欠席したが、朝、母親から「A子が学年主任の先生と話がしたいと言っている。友達
31 のことで悩んでいるようだ。」と電話があった。また、B教諭が教室に行くと、A子と同じ生活班の
32 二人の女子生徒が、A子を一人にしていたことを謝りたいと訴えてきた。B教諭はこの件に対し、人
33 間関係を深める活動に取り組むことを含めた、新たな支援方針を立てる必要があると考え、学年主任
34 にケース会議を早急に開くよう提案した。

課題別研修

－不登校防止パッケージ H27事例－

不登校事例（高等学校）

1 A男（1年生）は、勉強は苦手だが何とか進学校へ入った生徒である。小学生の頃から教育熱心な
2 両親の願いもあり、大学を目指して勉強中心の生活をしており、中学校では部活動に所属せず、塾以
3 外での友人は少なかった。現在通っている高等学校は、自宅からはかなり遠いが、大学へ進学する生
4 徒が多いことを理由に両親と話し合って決めた。そのため中学校時代の友人はおらず、入学当初から
5 一人で過ごすことが多かった。趣味は読書とテレビゲームで、休憩時間は読書をして過ごし、昼食時
6 間や授業の教室移動は常に一人で、自分からクラスメートに話しかけることはしなかった。また、周
7 りの同級生から声をかけられることもほとんどないため、一日中誰とも話すことなく下校することが
8 しばしばあった。

9
10 夏休みに実施された三者懇談で、A男が突然「学校になじめないので退学して、他の学校を受験し
11 直したい。」と言い始めた。母親と担任のB教諭はいじめなどの問題が原因ではないかと話を聞いた
12 が、A男は否定し続けた。B教諭は家庭できちんと話をしてくるよう促して帰したが、A男は次の
13 日の夏季休業補習授業からは、一日も出席することなく、2学期が始まってそのまま欠席した。欠
14 席が3日続いた放課後、B教諭は家庭訪問をしてA男から話を聞いた。高校の授業の進度が速く、つ
15 いていけなくなっていること、高校生活や勉強の悩みについて話せる友達がいないことが原因である
16 ことを聞き取った。母親はA男には今の学校で頑張らせたいと考えており、B教諭は転校したいと考
17 えているA男を説得してほしいとお願いされた。

18
19 B教諭は家庭訪問で聞き取ったことを、学年主任、管理職に伝え、今後の支援方針について話し合
20 った。学習面については、これから効率的に勉強をすれば大学受験までには十分間に合うことを伝え、
21 A男の一日の過ごし方をA男とB教諭で一緒に見直して勉強時間を設定したり、特に苦手な英語の学
22 習方法についてアドバイスをしたりすることを決めた。人間関係については、A男は文化祭には参加
23 する気持ちがあるので、文化祭をきっかけにクラスメートと話ができるよう、B教諭を中心に、教師
24 が周りの生徒に働きかけていくことを決めた。

25
26 翌日、B教諭は家庭訪問をし、A男に学習面の助言をじっくり行い、困った時にはいつでも相談に
27 乗ることを伝えた。また、文化祭でのクラスの出し物についてA男に説明し、当日はA男ができると
28 ころだけの参加でよいこと、クラスの文化祭実行委員が、A男が参加できるよう、A男に特別練習を
29 したいと言っていることを伝えた。

30
31 次の日からA男は登校した。授業中教師の話にしっかりと耳を傾ける姿が見られた。A男は、家で
32 の勉強時間を増やしたこと、通学中の電車の中でも勉強をしていることをB教諭に話した。今の学校
33 でもう一度頑張る気持ちになったようだ。しかし、A男は文化祭実行委員と練習をすることはなく、
34 文化祭の日は欠席した。人間関係については1学期と変わらない状況である。B教諭は、学習面で意
35 欲が高まっているが、話のできるクラスメートがいない状態では、A男は再び不登校状態に陥る可能
36 性があると考え、学年主任にケース会議を早急に開くよう提案した。

作成：岡山県総合教育センター 生徒指導部